

TECHNICAL DATA

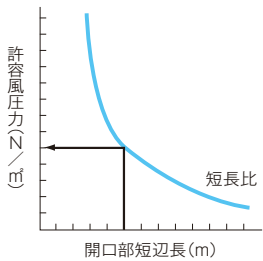
設計資料

力風

ガラスブロック面の許容風圧力は、補強筋間隔と開口部寸法によって決まります。下の許容風圧力線図よりガラスブロック面の許容風圧力を求め、設計風圧力を満たす条件を選定してください。設計風圧力の算出は、ガラスブロックをご使用いただく面の設計風圧力を建築物の設計条件にもとづき設定します。設計者から特に指示がない場合は、帳壁に用いる風圧力算定においては、平成12年建設省告示第1458号に示される算定式の適用を推奨します。

許容風圧力〔平面施工〕

許容風圧力線図



許容風圧力線図の見方

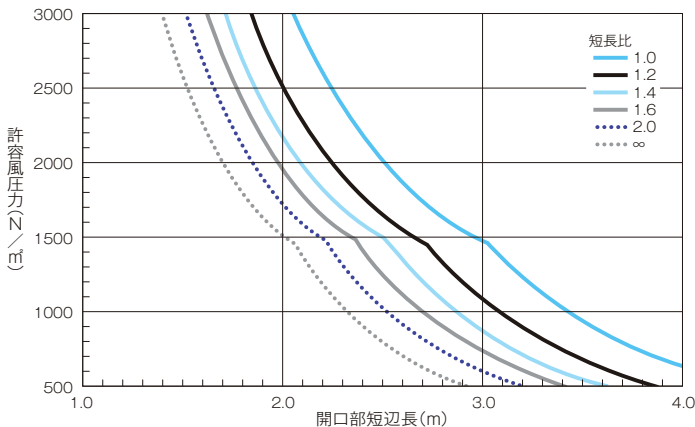
- 1 開口部寸法より短長比を求めます。
短長比=長辺/短辺
- 2 補強筋間隔別の許容風圧力線図により許容風圧力を求めます。
- 3 許容風圧力>設計風圧力であれば安全に施工できます。

*許容風圧力線図は、面外変形量が短辺長の1/200かつ20mm以下の条件で算出したものです。

》 平面施工

平面施工は、四辺支持で強度検討を行います。(左図)

許容風圧力線図 [ガラスブロック95mm厚、補強筋間隔620mm]

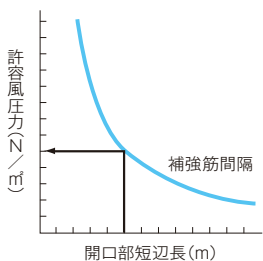


》 補強筋間隔

補強筋間隔620mm以外はホームページまたは「ガラスブロック壁の設計・施工マニュアル」をご覧ください。

負圧時許容風圧力〔曲面施工・コーナー施工〕

負圧時許容風圧力線図



負圧時許容風圧力線図の見方

- 1 開口部高さを求めます。
 - 2 負圧時許容風圧力線図により許容風圧力を求めます。
- *負圧時許容風圧力線図は、面外変形量が開口部高さの1/200以下かつ20mm以下の条件で算出したものです。

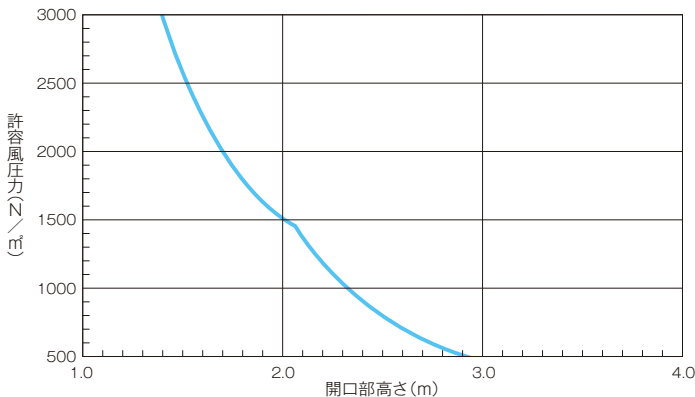
》 曲面施工・コーナー施工

曲面施工・コーナー施工は、正圧時において四辺支持、負圧時において上下二辺支持で強度検討を行います。正圧時の強度検討は、平面施工と同様に行い、負圧時の強度検討は左下の負圧時許容風圧力線図より許容風圧力を求め行います。

》 強度検討の手順

- 1 負圧時の許容風圧力を負圧時許容風圧力線図により求めます。
- 2 正圧時の許容風圧力を求めます。(平面施工と同様に行う)
- 3 正圧時許容風圧力>設計風圧力(正圧)
負圧時許容風圧力>設計風圧力(負圧)
であれば安全に施工できます。

負圧時許容風圧力線図 [ガラスブロック95mm厚、補強筋間隔620mm]



ガラスブロック開口部が標準寸法を超える場合、80mm厚ガラスブロックをご使用される場合などは、ご相談ください。なお、開口部が標準寸法を超える場合は、補強筋の仕様変更や、鋼材による開口部分割が必要となります。